

運動・遊びが子どもに与える影響

ー特に自主性と社会性に着目してー

谷尻 拓也 (競技スポーツ学科 コーチングコース)

指導教員 松田 保

キーワード：キッズサッカー，自主性，社会性

1. 緒言

時代とともに運動遊びが大きく変化する中で、ひ弱な子どもがどんどん増え、運動やスポーツの果たす役割はますます大きなものになってきている。運動能力の低下に関しては、耐える力や積極性や自主性など、メンタルな要素が強く影響し、特に幼児においては心身の相関がかなり強いことが言われている。また、幼少期におけるスポーツへの参加は、身体的発達のみならず規則を守る、責任を果たすなどの社会的スキルの獲得を含め、多様な側面にポジティブな影響をもたらすことが期待されている。ところが、特に少子化の影響で遊び仲間が減少してきたこと、都市圏においては遊び場が少なくなってきたこと、危険だからやめるように指示する親や周囲の関わりすぎといった過保護的な対応が目立っている。その結果、子どもは自主的に試してみようとする挑戦心や創造性が育つような経験が少なくなっている傾向にある。

2. 研究方法

滋賀県サッカー協会のサッカースクール、京都のサッカークラブでキッズサッカーを行っている小学生の保護者にアンケート調査を行う。アンケートで得たデータから、現代の子どもの自主性と社会性の問題に照らし合わせ、分析を行う。

3. 結果と考察

運動・遊びが子どもの自主性や社会性に与える影響を調べた結果、回答はどれもポジティブなものが多く、保護者は、キッズサッカーをきっかけに子どもの主体性、社会性が向上したと感じていた。小学生にとって、十分な広さが確保されたグラウンドで、指導者のもと同じ年代の子どもと同じ規律のなかでスポーツをするというのは初めての経験であり、それが多くの子どもたちに良い影響を与えたと考えられる。

4. まとめ

運動・遊び（キッズサッカー）は、子どもたちの主体性や社会性を成長させる良い手助けとなっている。仲間たちと助け合うことや長い時間を同じコミュニティで過ごすことで社会性を身につけ、個人としてもさまざまなことにチャレンジし、主体性も身につける。運動・遊びは、子どもたちの主体性や社会性の成長にとって非常に有用であり、欠かせないものである。現代の子どもは、主体性や社会性が育ちにくい環境にあるが、子どもは日本の現状に沿って成長しているだけであり、子どもにはどうすることもできない。子どもたちのために、周囲の大人がその重要性の認識を改める必要がある。

【引用参考文献】

杉原隆 (2011) 生涯スポーツの心理学. 福村出版株式会社. p67